

グローバル制御社会のメディア分析のための新たな理論構築

Towards the Construction of New Media Theory for the Analysis
of Global Control Society

水嶋 一憲 (MIZUSHIMA Kazunori)

アントニオ・ネグリとマイケル・ハートが、グローバル化する現代世界を新たな視角から捉えるために呈示した〈帝国〉という概念は、今日もさまざまな学問分野に強い影響をあたえている。〈帝国〉とは、従来の国民国家の境界を超えたネットワーク状の主権形態や、グローバルな制御（コントロール）社会への移行を指し示す概念である。こうしたグローバル制御社会としての〈帝国〉は、諸国家の領域を横断する資本の動きやインターネット以降のデジタルメディア環境の劇的な変化とも連携しつつ、私たちの〈共にある生〉のあり方を大きく変容させている。本研究は、ネグリとハートによる帝国論の新展開の重要性を一定評価しつつも、彼らの〈帝国〉研究におけるメディア理論の不備を批判する立場に立つ。その上で、かかる重大な欠点を補い、またひいてはグローバル制御社会としての〈帝国〉を十全に分析するために、グローバル化時代の新たなメディア理論を構築することを目的とする。

そのような目的に到達するために平成 29（2017）年には、以下のような研究成果をあげた。

【招待報告】 Kazunori Mizushima, “Into the <platformative situations>”（ハーヴァード大学主催の East Asian Media Studies Conference におけるトマス・ラマール教授の基調講演 “Platformativity: Media Studies, Area Studies” に対して、招待討論者として読み上げた原稿、於 アメリカ・ハーヴァード大学、2017 年 5 月 6-7 日）、【国際会議の組織運営】公開シンポジウム「ポストメディア時代の芸術文化と理論」（於 東京藝術大学、2017 年 7 月 25 日）と、“International Conference: TOWARDS POST-MEDIA STUDIES IN ASIA”（於 東京藝術大学、2018 年 1 月 27-28 日）を主催者の一員として組織運営、【著書(共著)】伊藤守編著『デジタルメディア時代の公共空間』、東京大学出版会、近刊、担当箇所は、水嶋一憲、「デジタルメディア時代の個人と集団の変容：対抗メディア化の可能性を求めて」の原稿提出（受理済み、出版に向けた編集作業中）、【翻訳(共訳)】N・スルニチェク+A・ウィリアムズ「加速派政治宣言」、水嶋一憲（翻訳責任者）・渡邊雄介訳、水嶋一憲、訳者解題、『現代思想』、46 巻 1 号、青土社、176-186 頁、2017 年。

これらの作業と成果を踏まえた上で、本研究は 2 年目に当たる平成 30（2018）年度も目的の達成に向けてさらに多面的な探究を推し進めてゆく予定である。